

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月2日～9月8日)

2017年9月11日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 福島県庁一行の訪問(9月3日～5日)
- 外務省が北朝鮮の核実験に対して抗議声明を発出(9月4日)
- ジャネリゼ・ジョージア外務大臣の訪問(9月4日, 5日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●ジョージアのジャネリゼ外務大臣との会談

9月4日、ルカシェンコ大統領は、当地訪問中のジョージアのジャネリゼ外務大臣と会談した。同大統領は、両国間には実質的に論争となるような問題はなく、両国はお互いを必要としており、経済的にも競合関係にはないと述べ、ベラルーシは今後ジョージアに対して必要な機械製品を供給する用意があると明言した。ジャネリゼ大臣は、関係省庁による新たな関係の構築及び将来性のある共同プロジェクトの立案を支援する両国外務省の活発な活動について述べた。また同大臣は、両国間の貿易・経済関係が発展していることは喜ばしいと述べ、両国の貿易高が増加しているとともに、新たに始まった共同生産の事例についても言及した。

(9月4日付大統領サイト、国営ベルタ通信)

●ロシア連邦共産党ジュガーノフ党首との会談

9月5日、ルカシェンコ大統領は、当地訪問中のロシア連邦共産党ジュガーノフ党首と会談した。同大統領は、「社会主義の理念に基づく社会主義国家へようこそ」と述べて同党首を歓迎し、他の旧ソ連諸国とは違ってベラルーシは共産党の理念の実現を試みており、その多くがうまくいっていると述べた。同会談では、ベラルーシとロシアの協調行動に関する諸問題が検討され、特に機械製造分野での協力促進について言及があった他、電気自動車に関する問題も提起された。同党首は、同大統領に対してロシア

経済の発展について説明するとともに、農産物生産の拠点作りに関してベラルーシに豊かな知見があることにつき指摘した。

(9月5日付大統領サイト、ベラパン通信)

●ロシアとの合同軍事演習「ザーパド 2017」に関する会合の開催

9月5日、ルカシェンコ大統領は国家安全保障会議、治安機関、国防省幹部とロシアとの合同軍事演習「ザーパド 2017」につき会合を開催した。席上、同大統領は、同演習が防衛的な性格のものであるとした上で、ベラルーシ・ロシア両国はいかなる国への侵攻も企図しておらず、実際の演習がどのようなものとなるかについては、事実上視察希望者全員が招待されており、足を運んで視察することができる旨強調した。

(9月5日付大統領サイト、ベラパン通信)

●ベラルーシオリンピック委員会執行委員会会合の開催

9月7日、ルカシェンコ大統領は、ベラルーシオリンピック委員会執行委員会会合に出席した。同会合では、2019年に予定されている第2回欧州選手権大会の開催につき協議された。同大統領は、ホッケーW杯の際に査証制度を緩和した実績があると指摘し、ロシアとの間で両国査証の相互承認問題及び関連する全ての問題の解決につき合意する必要があると述べた。

(9月7日付国営ベルタ通信)

【内政】

●欧州人民党からの人権状況改善勧告

9月5日、コペンハーゲンで開催された欧州人民党(EPP)の政治部会総会は、ベラルーシ政府に対して国内の人権状況改善のための措置を講じるよう呼び掛ける決議を採択した。同決議では、今年春に行なわれた反政府集会参加者の大量拘束や、平和的な意思表示及び集会の自由に関する人権の侵害について指摘されている。

(9月5日付ベラパン通信)

●ジノフスキー経済大臣と政治団体「真実を語れ」代表との会談

9月6日、ジノフスキー経済大臣は、政治団体「真実を語れ」のコロトケヴィチ及びドミトリエフ両共同代表と会談した。ドミトリエフ共同代表によると、同会談では、地域における市民の参加が果たす役割の向上、地方議会議員や公共団体の活動、中小企業のための環境整備などについて話し合われた。同共同代表は、会談の席上、同大臣は「あらゆる対話の場において代替となるやり方や意見が表明されなければならない」と述べたと指摘し、経済大臣から直接こうした見解を聞いたことは、発展のための対話を推進する戦略上の大いなる勝利であるとした。またコロトケヴィチ共同代表は、自営業者への対応や経済に関する知識の普及に関する同団体からの提案につき、同大臣はその必要性につき同意し、関連法を起案する際に参考にしたい旨の回答があったと述べた。

(9月6日付ベラパン通信)

【外政】

●北朝鮮の核実験に対する外務省声明

9月4日、外務省は、3日に行なわれた北朝鮮の核実験に関し、以下の内容の声明を同省サイトにて発表した。

・ベラルーシは、核不拡散体制の強化と遵守を一貫して支持しつつ、北東アジアのみならず全世界の緊張をエスカレートさせる北朝鮮による

熱核爆弾実験の実施に対して、深い懸念を表明する。

・この地域の平和と安定の達成は、対話を通じてのみ可能である。そのため、北朝鮮に対し、一連の国連安保理決議違反であるとともに武力による問題解決を煽る行動を取らないよう呼び掛ける。

・ベラルーシは、全ての関係国間で、国際法を踏まえ、国連安保理の権限を尊重しつつ、交渉プロセスが早急に開始されることを支持する。自制を示し、平和の維持を優先することを呼び掛ける。

(9月4日付外務省サイト)

●福島県庁一行の保健省訪問

9月5日、保健省は、日本の福島県庁の一行が同省を訪問したと発表した。一行の今次訪問は、チェルノブイリ原発事故処理に関するベラルーシの知見を学び、それらを日本で応用する可能性につき調査することを目的としたもの。マラシコ保健大臣が一行を迎え、ベラルーシは熟慮された諸政策と大規模な国家プログラムの実施により、原発事故処理分野で多くの成果を達成できたと述べた。一行は、放射線生態学的視点からの生活環境の整備や、住民に対する広報活動などに高い関心を寄せた。会談の総括として、原発事故被害の最小化を目的とした協力関係を強化していく意向が表明された他、ベラルーシ側からは複数の共同プロジェクトが提案された。

(9月5日付国営ベルタ通信)

●三者コンタクト・グループ会合の開催

9月6日、ミンスクにおいて三者コンタクト・グループ会合が開催された。サイディック欧州安全保障協力機構(OSCE)特別代表は、新学期の開始を考慮した期限を定めない停戦により、8月25日から本日までと、それ以前の同じ期間を比べると、停戦違反数と爆発件数がそれぞれ67%と74%減少したと述べ、同会合は双方が引き続き無期限の停戦体制を継続していくことに

なるよう全力を尽くすと述べた。また同特別代表は、寒冷期の到来に伴い、スタニツァ・ルハンスカの橋梁に続く道路の改修が切実な問題になっていると指摘し、地域住民のためにも双方は無条件で共通の解決策を見出すべきであると述べた。

(9月6日付国営ベルタ通信)

●東方パートナーシップに関する国際会議の開催

9月7日、ミンスクにおいて国際会議「これからの東方パートナーシップ：域内での混乱の高まりを受けて」が開催された。同会議での記者会見においてクラフチェンコ外務次官は、ベラルーシとEU間の協力協定締結につき、EU側からは締結に向けた準備について何もコメントがなかったと指摘し、本年11月24日に予定されている東方パートナーシップ加盟国サミットにおける同協定の締結は期待できないだろうと述べた。同次官は、先日ヴィシエグラード・グループ(V4)の各外相がEUとベラルーシ間の査証緩和に関する協議の再開と妥結を期待するとの声明を発出したことに言及し、同声明がEUの姿勢に影響するかもしれないとしたが、「いずれにしても時間を要するだろう」と述べた。

(9月7日付ベラパン通信)

【治安・軍事】

●ロシアとの合同軍事演習「ザーパド 2017」を巡る動き

・NATO 幹部の発言

露タス通信によれば、9月7日、北大西洋条約機構(NATO)ストルテンベルク事務総長は、ベラルーシ・ロシア合同軍事演習「ザーパド 2017」の進展を警戒しつつ注視してゆくとした上で、NATO 諸国に対する直接の脅威が見いだせない以上、平静を保ってゆくと述べた。

また同日、NATO 本部防衛政策・能力部コストル部長は、ベラルーシ・ロシア両国合同軍事演習「ザーパド 2017」のシナリオには攻撃的な要素も含まれてはいるものの、NATO 諸国に

とって直接の脅威とは考えていないとした上で、極めて注意深く状況を注視してゆくと述べた。

(9月7日付ベラパン通信)

・国防大臣：演習の準備が完了

9月7日、ラフコフ国防大臣は、「ザーパド 2017」の準備が完了しており、9月13日には指揮システムが展開され、翌14日から演習開始予定であると述べた。

(9月7日付国営ベルタ通信)

●装備品の調達に関する軍高官の発言

露タス通信によれば、9月7日、空軍・防空軍ゴルプ司令官は、ベラルーシ・ロシア両国合同地域集団の強化の目的とした軍事技術協力により、本年上半期、ロシアからベラルーシに対し、Mi-8MTV-5ヘリコプター6機と地対空ミサイルシステム「トル M2」1個中隊が納入された旨述べた。また同司令官は、2018年～2020年にかけて、「プロチヴニク GE」レーダーシステム納入契約も締結されているとも述べた。

また同日、ラフコフ国防大臣は、Yak-130 練習機を4機追加購入する予定であると述べた。

(9月7日付ベラパン通信)

【経済】

【対外経済】

●ロシアからの融資は9月に振り込み予定

財務省によれば、ロシアからの7億ドルの融資は9月に振り込まれる見込み。同融資は償還期限10年で、ベラルーシがこれまでに受け取った融資の借り換えに用いられる。同融資の返済は2018年から、毎年4月と10月の2回実施される予定。

本年、ベラルーシが償還予定の債務は総額約35億ドルで、そのうち対外債務は17億ドル、国内債務は18億ドル。対外債務償還先で大きなものは、ロシア(7億4,130万ドル)、ユーラシア安定化発展基金(4億8,790万ドル)、中国(3億8,170万ドル)。

(9月1日付ベラパン通信)

●ロシアからの原油供給予定に変化なし

露タス通信によれば、9月2日、ドヴォルコヴィチ露副首相は、ロシアが2017年、ベラルーシに対し予定どおり2,400万トンの原油の供給を行う旨発言。

(4月3日にサンクトペテルブルクで開催された両国首脳会談の結果、2017年～2024年にかけて、ロシアはベラルーシに対して毎年2,400万トンの原油を供給する政府間文書が署名された。8月16日、プーチン露大統領は、ベラルーシの製油所向けの原油供給と精製された石油製品のロシアの港湾からの出荷とを結びつける必要がある旨発言した。8月18日、ノヴァク露エネルギー大臣は、両国間の合意では実際の原油供給量がある程度下回る可能性についても想定されていとしつつも、ベラルーシ側への供給量が2,400万トンを下回ることはない旨述べた。)

(9月2日付ベラパン通信)

●世界銀行ベラルーシ事務所長の交代

9月6日、経済省でジノフスキー経済大臣と世界銀行カハコネン・ディレクター(ベラルーシ・モルドバ・ウクライナ担当)及び新たに着任した同行クレマー・ベラルーシ事務所長との会談が行われた。席上、現在ベラルーシにおいて世界銀行が実施中の投資・コンサルティングプロジェクトにかかる問題の他、2018～2021会計年度における世界銀行とベラルーシのパートナーシップ戦略が準備されていることを踏まえたベラルーシと世界銀行との連携の優先分野につき協議された。

(9月6日付経済省サイト、ベラパン通信)

●「ベラルーシ・カリ」社長：露「ウラル・カリ」社との提携の必要性なし

9月7日、ゴルバトイ「ベラルーシ・カリ」社長は、露「ウラル・カリ」社との提携には必要性が見いだせない旨発言。

(2008年～2013年にかけて、「ベラルーシ・カリ」と露「ウラル・カリ」両社はカリウム肥料の

輸出版売を連携して実施していたが、2013年7月に両社の方針の不一致により、露側が連携を解消した。これによりカリウム肥料の価格が下落し、需要も低迷していた。その後、「ベラルーシ・カリ」は自社の販売会社を通じて独自に肥料販売市場を開拓するようになった。)

(9月7日付ベラパン通信)

(了)